



事務局ニュース 〈11号〉 2017. 12. 21

今年も残り少なくなりました。どんな一年でしたか。来年は冬の五輪も開催され、日本人の活躍が期待されています。また、年末は各所属での合宿など行事が組まれると思いますが、体調には十分気を付けて行ってください。

シンガポールチーム 日本遠征

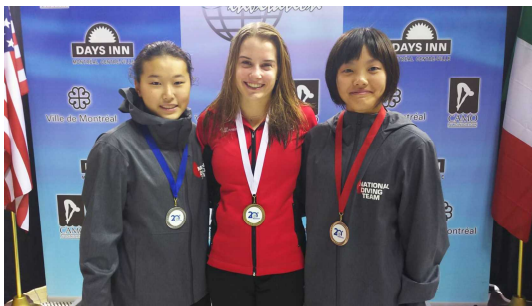


11月25日から12月4日の日程で、冬季海外合宿でお世話になるシンガポールのジュニアチーム20名が来日され、日本ガイシアリーナに来て練習していました。(シンガポールスポーツスクールの13~15歳のメンバー)今回は練習の他、春日井での大会にも出場しモチベーションを高め、選手にとっては士気も上がったそうです。しかし、自国ではトップレベルにいても日本では太刀打ちできないとコーチングスタッフからの感想でした。今回お話を伺っていて、

〈日本ガイシアリーナ温水プールで練習〉 食事のことが話題になりました。シンガポールは他国籍の集まりで宗教上の問題があり食事には気を使うそうです。2026年のアジア大会は大変でしょうね、と。海外の選手との交流は、単に記録の善し悪しだけでなく、生活面や精神面、マナーについても良い勉強になるんだと感じました。

CAMO International Invitation 2017 (第20回記念大会) 凱旋報告

11月30日から4日間、飛込競技の国際大会に参加してきました。朝5時起床、朝食を済ませ、マイナス気温の中、雪の積もった街並みを歩き地下鉄に乗り、7時にはプールへ。アップ終了後、おおむね9時から競技開始。出場者が多いことから日本では考えられない2ヶ所同時(例えば、男子高跳込中、タワーの反対側の3mで女子飛板飛込をやる)の予選が始まり、引き続き別の組み合わせで4~5種目の予選が行われ16時過ぎから決勝・表彰式...。プールを出るのが19時過ぎで、ミーティング等を終えて各自部屋にたどり着くのが21時を回るといった過酷な状況でした。時期的に国内での準備も不十分のまま、このような生活のリズムの中で選手たちは本当によく頑張りました。男子2名、女子5名、一人平均3種目に出場し、獲得したメダルが全部で11個!「君が代」を3度も聞くことができましたことをここにご報告申し上げます。



たくさんのご声援、身に余るお志をありがとうございました。

柴田コーチより

11/27 ~ 12/5 の9日間、初めての海外遠征でモントリオールへ行って来ました。英語が苦手なので、初日はプールでどうしていいかわからずとても緊張しました。二日目からは、海外選手と少し会話や交流ができるようになりました。試合もいつもと全然雰囲気違って、とても緊張してしまいましたが、グループAの高飛込で8位、オープンの3m板飛込で3位に入賞で

〈3m板飛込で3位入賞の若林さん〉 きました。オープンの3m板飛込は、予選で失敗があり11位通過でしたが決勝では最後まであきらめずに1本1本を大切に飛び、「3位」と聞いたときには、びっくりして嬉しくて涙が出ました。今回このような貴重な体験ができたのは、いつも支えてくださっている周りの皆様のお陰だと思っています。この経験が生かせるように今後も頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

若林 佑季子選手より

シンクロナイズドスイミングがアーティスティックスイミングに変わります

来年度より名称が変わります。なぜ? シンクロ委員長に聞いてみました。

名称変更の提案は、IOC会長の発案です。その提案をFINAビューローが審議、可決し、さらにFINA総会で認められたという手順だそうです。理由としては、

- ① 体操競技が Artistic Gymnastic という英語名なので、シクロはまさに Artistic Swimming が適している
- ② ミックスデュエット、ソロ、コンビネーションは、シンクロナイズドスイミングというよりもアーティスティックスイミングの名称がふさわしい
- ③ アーティスティックスイミングの方が広義に捉えることができるので、シクロの持つ魅力をさらに広げて普及することにつながられる。ということだそうです。短縮名は模索中とのこと。

